

令和4年4月12日	
所 属	情報指令課
所属長	大木 康裕
電 話	06-6481-3968

令和3年火災・救急・救助統計について

1 趣旨

市内において、火災予防や救急車の適正利用を促すため、令和3年中に発生した火災、救急、救助に関する概要を広く周知します。

2 対象期間

令和3年1月1日（金）～令和3年12月31日（金）

3 各概要における項目

(1) 火災概要

火災の発生状況、出火件数、焼損床面積及び損害額、火災件数の推移、出火原因、住宅火災の出火原因

(2) 救急概要

過去10年間の救急出動件数の推移、程度別、年齢区分別、事故種別

(3) 救助概要

救助隊配置体制、救助工作車配置体制、出動件数、室内閉じ込め救助件数

4 その他

令和3年火災・救急・救助統計の詳細については別添のとおり

以 上

令和3年火災統計（概要版）

火災の発生状況

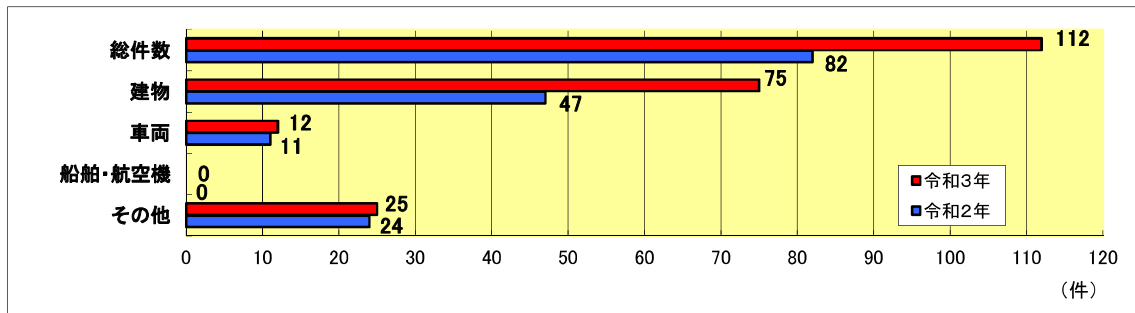
- 令和3年の火災件数は112件で、焼損床面積は2,097㎡、損害額は166,440千円、死者7名、負傷者29名となりました。

令和3年	
件数	112件
焼損床面積	2,097㎡
損害額	166,440千円
死者	7名
負傷者	29名

令和2年	
件数	82件
焼損床面積	1,015㎡
損害額	81,517千円
死者	4名
負傷者	17名

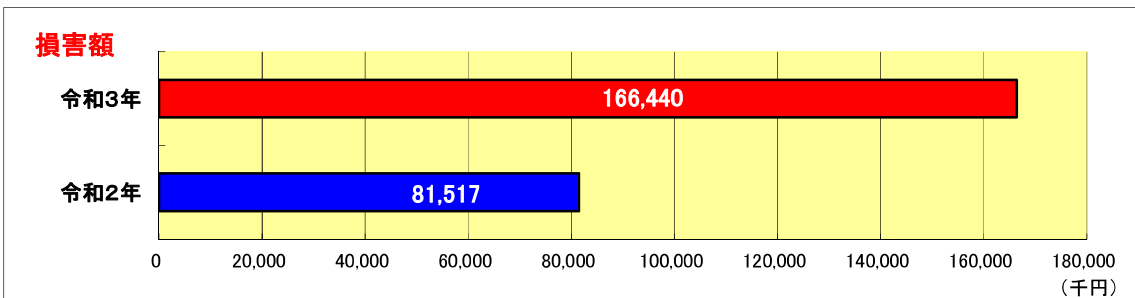
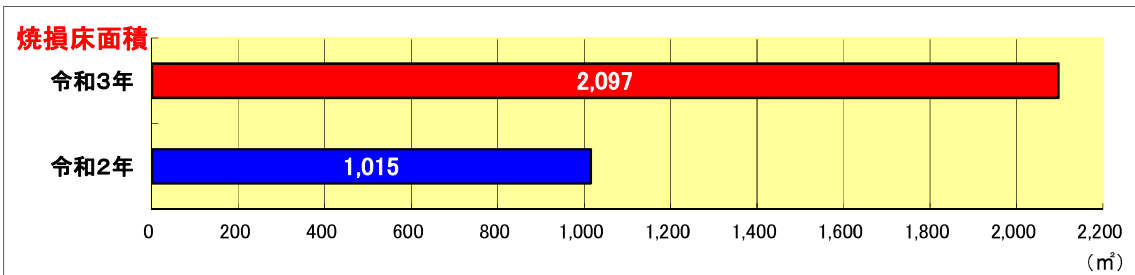
出火件数

- 出火件数は、前年の82件から30件増加し、112件となりました。
- 火災種別ごとでは「建物火災」が75件で28件増加、「車両火災」が12件で1件増加、「船舶火災」、「航空機火災」は共に0件で、「その他火災」が25件で1件増加しました。



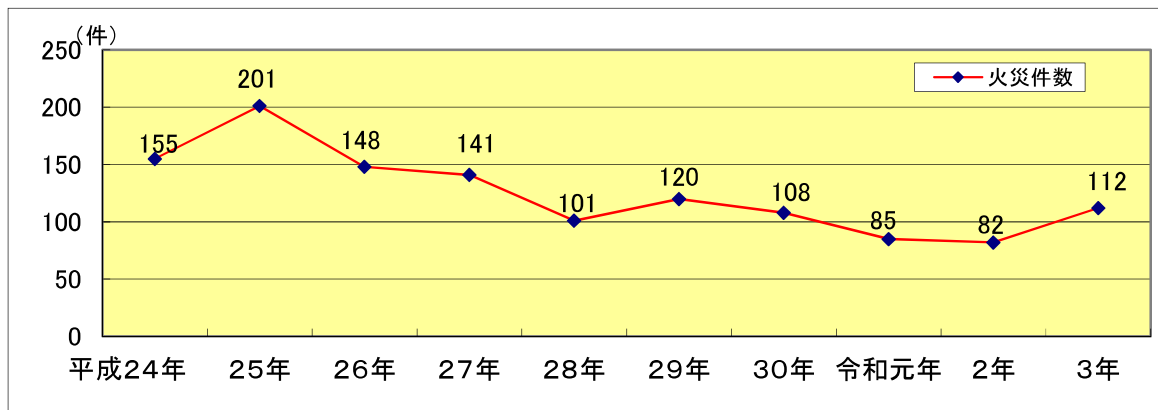
焼損床面積及び損害額

- 焼損床面積は、前年の1,015㎡から1,082㎡増加の2,097㎡、損害額は前年の81,517千円から84,923千円増加の166,440千円となりました。



火災件数の推移

- 令和3年は112件で、前年より30件の増加となりました。
- 過去10年間の平均は125.3件です。

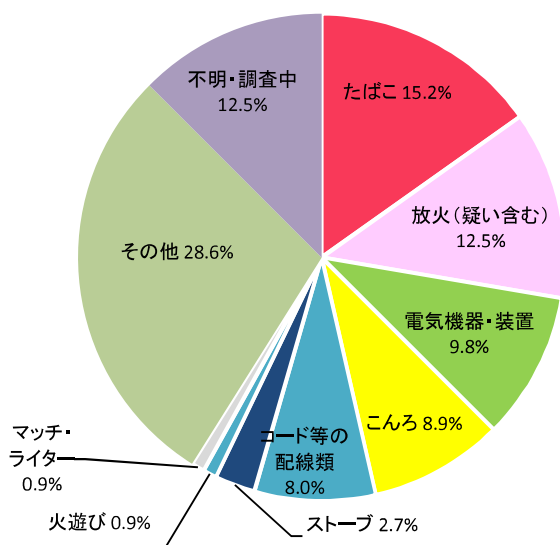


出火原因

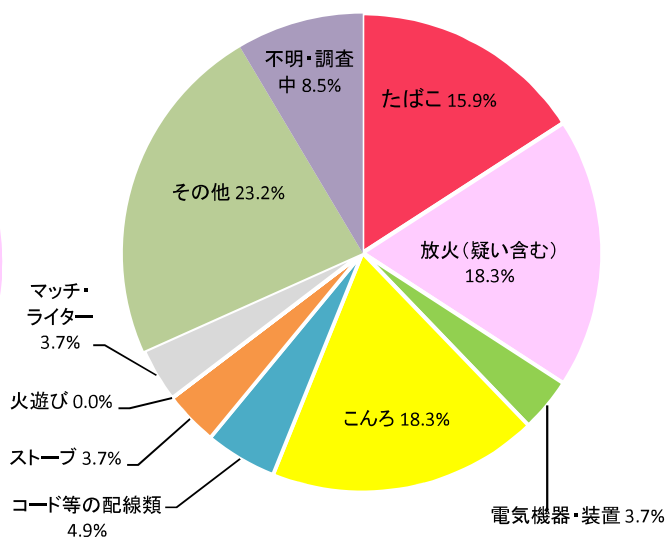
- 主な出火原因をみると、1位は「たばこ」で17件となり4件の増加となっています。2位は「放火(疑い含む)」で14件となり1件の減少となっています。3位は「電気機器・装置」で11件となり8件の増加となりました。
- 各出火原因の全体に占める割合は、上位から「たばこ」、「放火(疑い含む)」、「電気機器・装置」となり、件数は42件で割合は、37.5%となりました。

区分	令和3年	令和2年
たばこ	17件	13件
放火(疑い含む)	14件	15件
電気機器・装置	11件	3件
こんろ	10件	15件
コード等の配線類	9件	4件
ストーブ	3件	3件
火遊び	1件	0件
マッチ・ライター	1件	3件
その他	32件	19件
不明・調査中	14件	7件
合計	112件	82件

令和3年



令和2年



※四捨五入しており、100%にならない場合があります。

住宅火災の出火原因

- 住宅やアパート・マンションなど住宅火災全体の件数は34件で、前年の29件から5件の増加となっています。
- 令和3年の出火件数112件に占める住宅火災の割合は、30.4%となりました。
- 住宅火災における出火原因の主なものとして、「たばこ」、「こんろ」、「放火（疑い含む）」となり、その原因が住宅火災全体を占める割合は50.0%となりました。

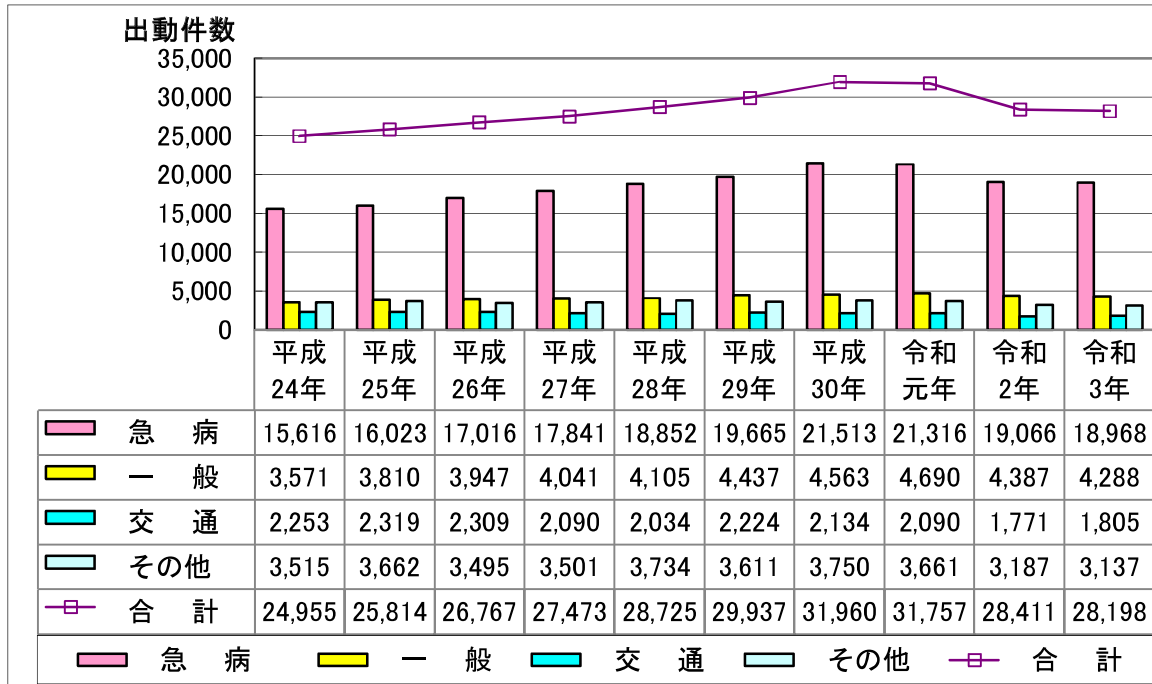
建物別	年別	計	放火（疑い含む）	たばこ	こんろ	火遊び	マッチ・ライター	ストーブ	電気機器・装置	コード等の配線類	その他	不明・調査中
一般住宅	令和3年	16	4	2	1			2	1	2	2	2
	令和2年	10	1	1	1		1	1		1	4	
併用住宅	令和3年											
	令和2年											
共同住宅	令和3年	18		5	5				1	1	3	3
	令和2年	19	2	3	8					2	1	3
合計	令和3年	34	4	7	6			2	2	3	5	5
	令和2年	29	3	4	9		1	1		3	5	3

令和3年救急統計（概要版）

令和3年中における救急出動件数は28,198件（前年28,411件）で213件（0.7%）の減少となり、搬送人員は23,313人（前年24,450人）で1,137人（4.7%）の減少となっている。1日平均は77.3件（前年77.6件）であり、約19分に1件の割合で救急隊が出動したことになります。

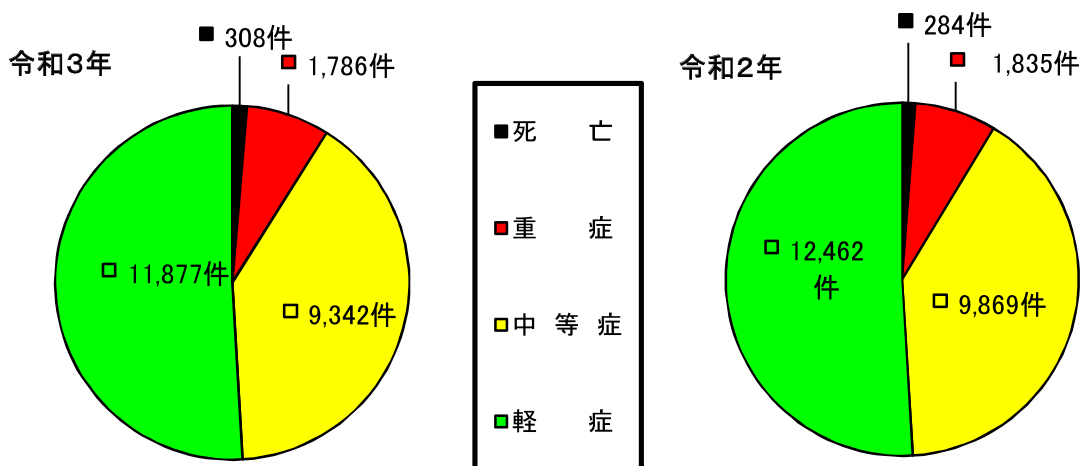
過去10年間の救急出動件数の推移

- 過去10年間の救急出動件数をみると、平成30年までは毎年増加していたが、令和元年からは3年連続で減少に転じている。



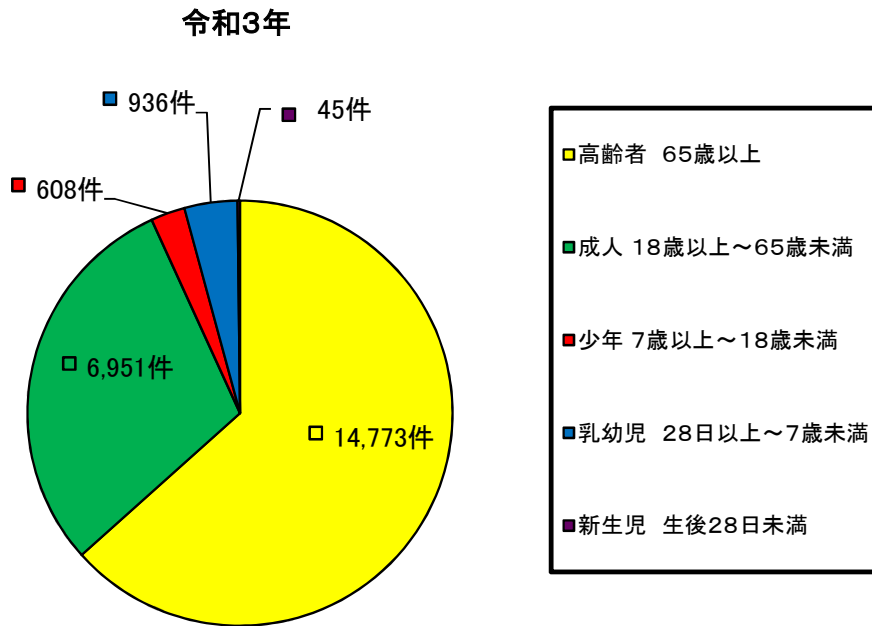
程度別

- 搬送人員を程度別にみると、軽症11,877人（前年12,462人）で585人（4.7%）の減少、中等症9,342人（前年9,869人）で527人（5.3%）の減少、重症1,786人（前年1,835人）で49人（2.7%）の減少、死亡308人（前年284人）で24人（8.5%）の増加となります。



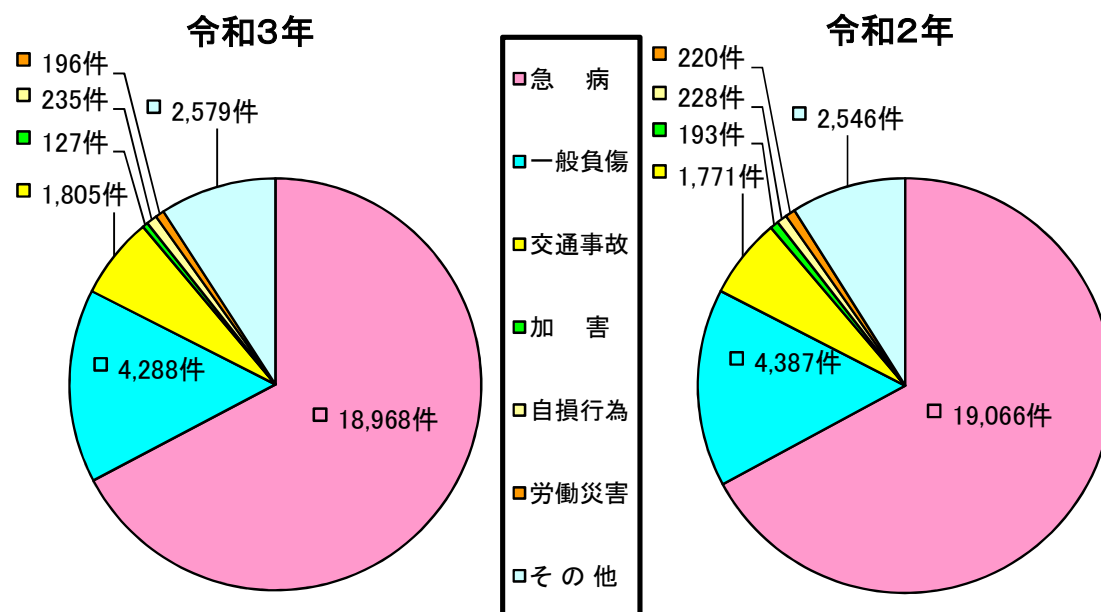
令和3年救急統計（概要版）

- 搬送人員を年齢区分別にみると、高齢者が14,773人で最も多く、全体の63.4%で、以下、成人、乳幼児、少年、新生児の順になっています。



事故別

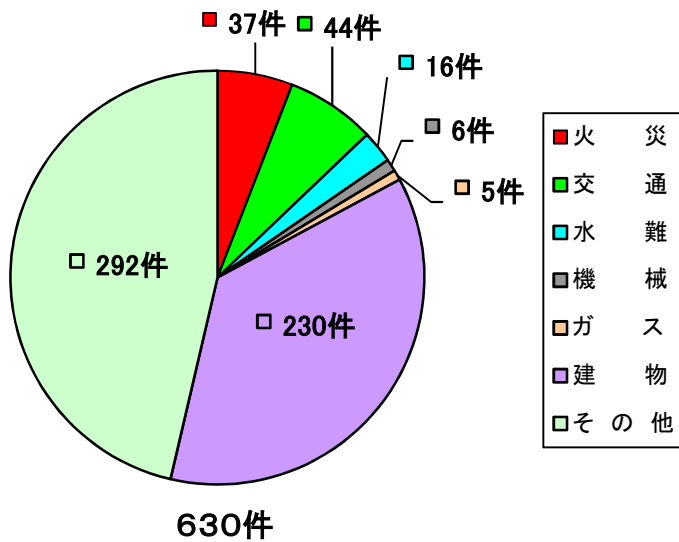
- 出動件数を事故別でみると、急病が最も多く全体の67.3%で、以下、一般負傷、交通事故の順になっています。



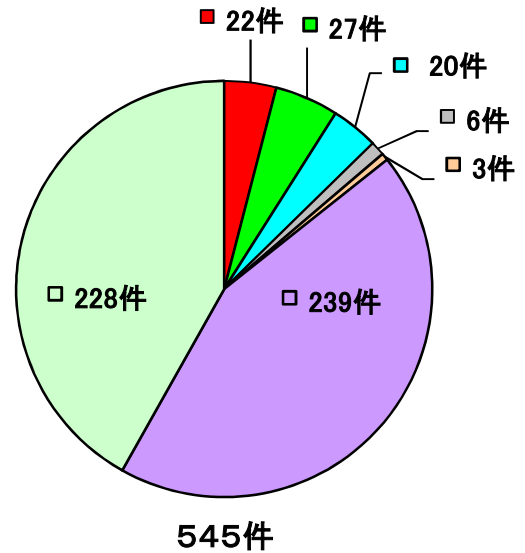
令和3年救助統計(概要版)

- 本市の救助体制は、高度救助隊1隊、特別救助隊1隊、署救助隊2隊、水難救助隊1隊で計5隊の救助隊を配置しています。
- 救助工作車は2台を有し、市域の南部に1台、北部に1台を配置し、あらゆる災害における救助体制の拡充、強化を図っています。
- 令和3年の救助件数は630件（前年545件）で85件（15.6%）増加し、出動隊数は1,154隊（前年950隊）で204隊（21.5%）の増加となっており、事故別にみると、建物等による事故が最も多くなっています。
- 近年では、室内閉じ込め救助が増加しています。この室内閉じ込め救助とは、何らかの理由により、自力でドアを開けて外に出られなくなった又は室内に人がいると思われるが、安否の確認が出来ない状態のことであり、救助出動件数630件のうち342件（54.3%）がこの室内閉じ込め救助出動となっています。

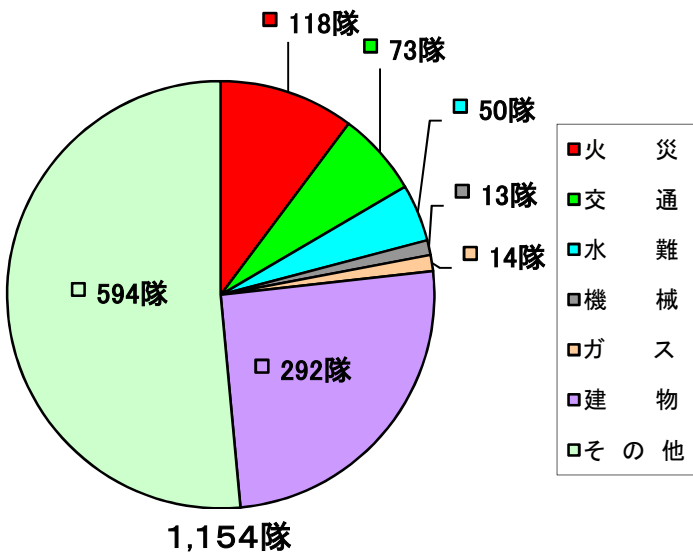
令和3年救助件数



令和2年救助件数



令和3年救助出動隊数



令和2年救助出動隊数

